



よもやま話に花が咲く。えきんぐらがお届けする小ネタ袋。

蔵通信

三五号

2013. 8

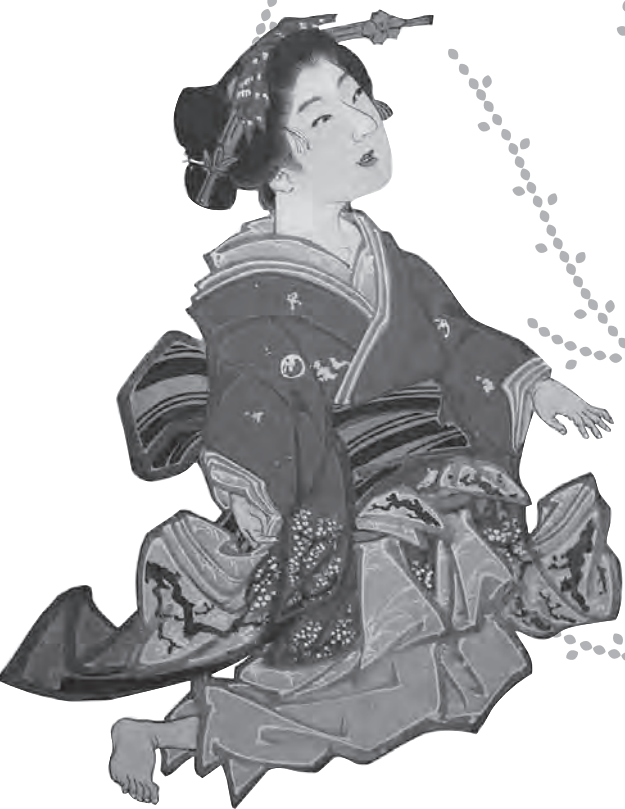
第三十四話

姉妹の決意

絵金蔵百話

シリーズ

発行：絵金蔵運営委員会
発行日：2013年8月1日
〒781-5310
高知県香南市赤岡町538
Tel.Fax 0887-57-7117
ekingura@mxi.netwave.or.jp
<http://www.ekingura.com/>



INFORMATION

最高のジャズと地酒、うまい肴、まちの芝居小屋で。

Kuni Mikami

at 弁天座

蔵でジャズ Vol.5

カウンター
あります!

カフェ 'タオ' 'ぜよ'
'Saori Sweets' 'sumica'
など出店予定

クニミサプロフィール

名門ビッグバンド、ライオネル・ハンブトン楽団で最後の専属ピアニストを務めた他、イリノイ・ジャズ楽団、キャブ・キャロウェイ楽団、デューク・エリントン楽団等、数々の名門楽団で演奏。2006年に日本ツアー開始、毎年50カ所以上で公演を行っている。ニューヨーク在住。

2013

11.9 [Sat]

開演：午後7:00 (開場 6:30) 全席自由
入場料：前売り 3,000円 当日 3,500円

【お問い合わせ・ご予約】
絵金蔵 〒781-5310 香南市赤岡町 538 TEL/FAX 0887-57-7117
E-MAIL ekingura@mxi.netwave.or.jp <http://ekingura.com/>

*チケットは絵金蔵にてお買い求めください。電話やファックス、Eメールでのご予約もできます。なお、未就学児の入場はご遠慮下さい。

主催：絵金蔵運営委員会
後援：香南市 / 弁天座運営委員会 / 高知新聞社 RKC 高知放送 / KUTV テレビ高知 / KSS さんさんテレビ
KCTV 香南ケーブルテレビ / NHK 高知放送局 / エフエム高知 / 高知シティFM 放送



一人遣い 伝統人形 大芝居

弁天座公演

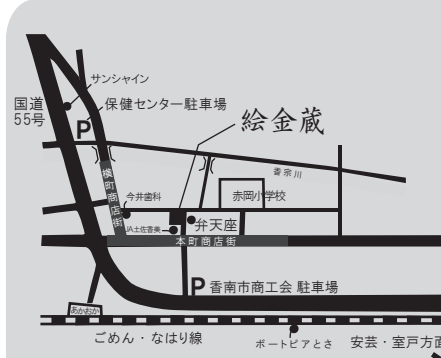
平成25年11月17日(日)
開演：午後2時30分 (開場：午後2時)

出演：阿波木偶箱まわし・佐渡人形芝居・常盤座・乙女文楽
チケット：一般 3,000円 (当日 3,300円)、小学生 1,000円 (当日 1,000円)
※全席自由、未就学児入場不可 電話予約：弁天座 TEL 0887-57-3060

主催：弁天座運営委員会
後援：香南市教育委員会
【チケット取扱所】高知プレイガイド・高知県立県民文化ホール・高知市文化プラザかるぼーとミュージアムショップ・高知県立美術館ミュージアムショップほか

【絵金蔵】

開館時間
午前9時～午後5時
(入館は午後4時半まで)
観覧料
大人500円、高校生300円
小・中学生150円
(15名以上の団体は各50円引き)
休館日
毎週月曜日
(月曜が祝日の場合は火曜)
12月29日～1月3日



幕末土佐の芝居絵師・金蔵
(通称・絵金)。彼は土佐
各地の祭礼に多くの芝居絵
屏風を残しました。絵金蔵
は、平成17年2月、赤岡の
地に残る23点の芝居絵屏風
を収蔵・保存するために作
られた施設です。

絵金蔵の三つの使命

：年に一度
絵金の文化を
守るため
：伝承
：次の世代へ
伝えるため
：縁結び
：地域を超えて
世代を超えて

えくらべ 2014

作品募集のご案内

絵金の芝居絵屏風は、かつて夏祭りのため地域ごとに奉納され、氏子たちによって出来栄を競いあう「えくらべ」が行われたと伝えられています。この風習にならい、現代作家による屏風絵作品の「えくらべ」を、来年度も公募展として開催いたします。本展を通じ、絵金と祭礼文化が次世代に継承される契機となるよう願っています。多くのアーティストの皆様のご参加をお待ちしております。

応募資格	・本展の趣旨に賛同する個人またはグループ（各1作品まで） ・未発表作品であること。 ・国籍・年齢不問
テーマ	自由
作品形態・サイズ	二曲一隻屏風の平面作品、総高 170 cm × 総幅 170 cm × 総厚 2 ～ 5 cm
作品について	夏祭りの夜、絵金屏風と同様に応募作品を町の通りに展示します。暗闇の中、蠟燭の明かりのもと絵金に負けない存在感を持つ作品を求めます。ジャンルは問いませんが、平面に限ります。
展示形態	商家の軒先やガレージ等に通りに向けて、約 130 度に開いた状態で飾ります。作品の前に蠟燭（燭台の高さ約 68 cm、蠟燭の高さ約 20 cm）1 本を立てます。
審査方法	来場者による投票で大賞を決定します。作品側のガラス瓶にビー玉を入れていただく方法です。また絵金祭りに関わる赤岡町の店主や絵金屏風の所蔵家たちによる審査も行い、計 2 点の表彰を行います。いずれも地場産品を贈呈。受賞作品は絵金蔵 HP 他にて発表し、絵金蔵にて一定期間展示いたします。
展示期間	絵金の芝居絵屏風を飾る伝統の祭り [須留田八幡宮神祭・するだはちまんぐうじんさい] 平成 26 年 7 月 14 日（月）・15 日（火） 午後 7 時～9 時 昭和にはじまる商店街振興のイベント [絵金祭り・えきんまつり] 同年 7 月 19 日（土）・20 日（日） 午後 7 時～9 時 ＊4 日間とも絵金屏風 13 ～ 18 点を同時展示
展示場所	高知県香南市赤岡町商店街周辺
応募期間等	申し込み：平成 25 年 9 月 1 日（日）～平成 26 年 3 月 31 日（月）
出品料	なし（但し屏風制作にかかる費用、搬入・搬出時の送料はご負担下さい。）
応募方法	所定の申込用紙及び作品プラン・プロフィール用紙に最新の作品資料を添えて送付して下さい。 審査後、選考結果を連絡、制作に入っていただきます。

申し込み用紙は絵金蔵 HP よりダウンロードできます。

なお、応募の詳細は絵金蔵 HP「えくらべ 2014」作品応募要項をご確認ください。

【お問合せ・お申込み】

絵金蔵「第 3 回えくらべ展」公募係 ☎781-5310 高知県香南市赤岡町 538
TEL/FAX 0887-57-7117 開館 9-17 時 月曜及び祝日の翌日は休館
E-mail ekingura@mxi.netwave.or.jp HP <http://www.ekingura.com>

絵金百話

第三十四話 姉妹の決意

ごたいへいきしろいしばなし しんよしはらあげや

碁太平記白石斬 新吉原揚屋

＜ 概 要 ＞

『碁太平記白石斬』は安永9年（1780）年1月、江戸・外記座にて時代世話物の人形浄瑠璃として初演されました。紀上太郎・烏亭焉馬・容揚黛ら、江戸の通人たちによる合作です。慶安4年（1651）に起こった慶安の変、軍学塾を開いた由井正雪が浪人たちを集め幕府転覆を計画した事件と、享保8年（1723）に実際に起こった仇討ち事件、若い姉妹が武士を相手に父の仇として討ち取った出来事をもとに、時代を『太平記』の世界、即ち南北朝時代に置き換えて脚色されています。歌舞伎でも同年に演じられ、今回ご紹介する段、通称「揚屋」が今日まで独立して上演されてきました。

その物語、仇討のきっかけとなったのは奥州白坂の悪代官・志賀台七しがだいしちがその悪事を見た百姓、もとは武士の家柄だった与茂作よもさくを殺したことに始まります。与茂作の姉娘・おきのは年貢を納められなかったため水牢に入れられた父の難儀を救うため、江戸吉原に身を沈めました。おきのの許婚・金江谷五郎かなえやごろうは、出会った宇治常悦うじようえつ（由井正雪）と力を合わせ、姉妹を助けて仇を討たせることを約束します。一方、妹娘・おのぶも報復を願い、苦労の末、新吉原の太夫みやぎの*1宮城野となった姉を訪ね、そこで男気ある揚屋（遊郭）の亭主・大福屋惣六そうろくの助けを得て、姉との仇討ちを誓います。二人は武術に励み、常悦らの助けによって見事仇討を果たすのでした。

ストーリーの展開は先行する実録物などに寄りながら、江戸で書かれた作品らしく新吉原*2の華やかな様子が独自に描かれています。また理不尽な代官の仕打ちや姉妹の哀切極まりない境遇が二人の台詞によって切々と説かれる一方、身の上を語るおのぶの台詞には純朴さとおかしさが漂い、見る者をなごませます。

今回ご紹介するのは絵金派の一人が描いた作品、宮城野とおのぶが偶然にも出会う場面です。人物の動きや表情にやや硬さは見られますが、宮城野の支度部屋の豪華なたたずまいと、その豪華さに驚くおのぶの姿、さらに深い奥行で屋敷の広さが表され、当時の賑やかな揚屋の様子をうかがわせます。

長く文楽や歌舞伎で愛されてきた作品を、今回もどうぞお楽しみください。

*1 最高位の女郎、遊女。

*2 江戸時代初期、街中に散在していた遊女屋を一箇所に集め、遊郭が公許されたが（元吉原）、明暦の大火以後、浅草に移転し新吉原（または吉原）と呼ばれた。

参考文献：『歌舞伎事典』平凡社 1993年4月
『新編 日本古典文学全集77 浄瑠璃集』2002年10月 小学館

碁太平記白石噺 戯作者たちのプロフィール

『碁太平記白石噺』の作者たちの顔ぶれは、豪商・町医者・大工棟梁など、浄瑠璃作者だけにとどまらない、多彩な顔を持つ、大江戸の文化人たちでした。彼らのユニークなプロフィールをご紹介します。

容楊黛 ？－？

生没年不詳。江戸中期、現在の上野に住んだ町医者であったと伝わる。ペンネームの容楊黛以外には三田村鳶魚という名が知られる。浄瑠璃では『碁太平記白石噺』以外には『加賀見山旧錦絵』が知られるのみであるが、単独作品となった本作で大当たりを取った。読本や洒落本なども著している。

参考文献：『国史大辞典』吉川弘文館／『日本国語大辞典』小学館
『江戸の大衆芸能 歌舞伎・見世物・落語』2008年11月 青幻舎

紀上太郎 1747－1799

本名は三井高業。三都に呉服・両替店を持つ豪商・三井家南家4代目当主。人形浄瑠璃の後援者として名高く、狂歌作者でもあった。浄瑠璃作者としては合作も含め江戸の4編、大阪の1編が知られている。福内鬼外（平賀源内のペンネーム）に『神霊矢口渡』などの浄瑠璃作品を書かせたとも伝わる。

きのじようたろう

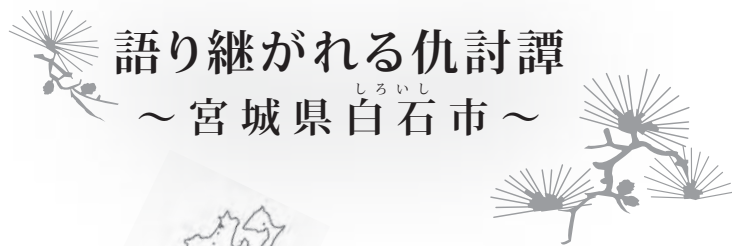


烏亭焉馬 1743－1822

今回取り上げる7段目「新吉原揚屋」の段を担当した。大工棟梁を家業とし、足袋商も兼ねたが、江戸中期の文壇、演劇のあらゆる分野に通じたパトロンとして知られる。戯作は安永6年（1777）頃から始め、平賀源内や天明期を代表する文化人・大田南畝（蜀山人）などとの親交を通じ、浄瑠璃作者となる。門弟には式亭三馬もいたという。その活動は多彩で、市川団十郎のひいき団体「三升連」を組織し、代々の団十郎を大いに盛り立てた。天明6年（1786）には咄の会を主宰、落咄を公募し、秀作を集めた本を上梓、落語中興の祖とも称される。

うていえんば

語り継がれる仇討譚 ～宮城県白石市～



宮城県白石市



孝子堂
宮城県白石市大鷹沢三沢字八枚田



白石市で講話に書き下ろされた『姉妹白石敵討』を語る講話師 神田織音さん

寛永十三年（一六三六）、伊達家の重臣片倉家の領内遂戸村にて、百姓の孝太郎とその娘二人が田の草取りをしていたところ、片倉家の剣術指南役・志賀団七が通りかかり、折悪しく娘の投げた草の泥がかかったのを無礼であるとして、その父を手打ちにした。病弱だった妻は力を落とし、他界。姉妹は江戸に上り、由井正雪の道場で修行を積み、幕府より仇討ちの許しを得て、寛永十七年（一六四〇）白石川六本松原にて、見事仇討ちを果たした。



赤岡町横町通り



赤岡町横町通り



「あかおか賞」選考会 絵金蔵にて



平成 24 年度作品展示
(高木酒造酒蔵)



赤岡町本町通り

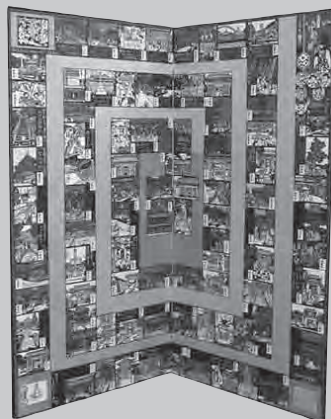
えくらべ 第2回 展

今年7月14・15・20・21日に実施した「第2回えくらべ展」。4日間で2186票が集まり、最も多い359票を獲得した、池知隆さんの作品が「えくらべ大賞」に、また後日絵金祭りに関わった町の人々が選ぶ「あかおか賞」に竹内英梨奈さんの作品が選ばれました。受賞者のお二人と、本展にボランティアとして参加して下さったお二人に感想をうかがいました。

えくらべ大賞

双六屏風 お四国きり絵の旅 池知 隆

いけじ・たかし 1950年、高知県生まれ。「昭和」をテーマに制作。現代童画会会員。1981年東京国際美術展奨励賞、1988年・1990年日本剪画美術展・日本剪画大賞、1989年高知県出版文化賞、2001年 現代童画展・東京都教育委員会賞、2002年現代童画展・東京都知事賞、2012年二科展デザイン部・赤十字150年記念カード（海外向）採用。著書に、『お四国きり絵の旅』『池知隆の切り絵いろはにほへと』『野仏のある風景』などがある。



この度、かねてより敬愛する絵師の屏風絵と混じってお披露目させて頂いた上にこのような賞を頂けてとても光栄です。絵金はいわゆるアカデミックな美術の教科書に載っているような画家ではございません。昨今の若冲や曾我蕭白などの流行で認知度も上がってきてはいますが、まだ未開拓といえる絵師ではないでしょうか。もしかしたら日本のあぶな絵系のファイナルフロンティアかもしれないと（勝手に）考えております。

私は以前より、どんな作家になりたい？と聞かれると「絵金のようにになりたい」と答えていました。一流の腕と市井への眼。人が欲しいものを描ける絵師になりたいと心から願います。



あかおか賞

Take me to the Hell. ～私を地獄へ連れてって～ 竹内 英梨奈

たけうち・えりな 1986年、千葉県生まれ。企業デザイナー。東京藝術大学油画科入学、同大学大学院版画科卒業。学生時代は浮世絵の研究が主。現在は大阪住まい。日本の伝統や技術、図案を世界へ！が目標。昼はデザイナー夜は自称切り絵師。個展等も行うが、最近力を入れているのはプロジェクトもの。横浜ポートシアターとの共同制作である影絵芝居「極楽金魚」現在も関東を中心に巡回公演中。



絵の前で投票用ビー玉を配布していると、「ルールは知ってるからビー玉ちょうだい！」と目を輝かせるお客さんがいたり、インパクトのある作品の前では、時間が経つにつれ人だかりになり、「あっちが良かった」「ええっ！断然こっちやろ」などと素人も玄人も関係なく美術談義がはじまります。普段着のお客さんがビールやイカ焼きなどを片手に、真剣に作品を見ている姿がとても印象的でした。赤岡のまちの元気や美術の力を体感できる、すばらしいお祭りだと思いました。

【作品監視ボランティア 宮川唯さん】



過去の絵師と未来の絵師が絵金祭りの日にひととき交流する「えくらべ展」。「おもしろいね。これも絵金？」「女性が描いたでしょう。」「北濱みたい。」と、道行く老若男女に大人気で、アート好きとしてお手伝い真実に頂きました。今でもたまに、あの幻想的な光景の中においた事を思い出してはホワッと、また日常生活を頑張っております。

【作品監視ボランティア 武田真木子さん】

もうひとつの宮城野



高知市に伝わるもう一つの作品。右の作品の次の場面です。仇討を遂げるためこの場を逃れようとする姉妹の前に大福屋惣六が表れ、短慮をいさめますが、二人は刃物を持って抵抗します。ここには宮城野が読んでいた仇討物『曾我物語』が見え、惣六が鏡台から手鏡を取って応戦する様子など、より詳細なディティールが描かれています。

■ おかしな物言ひではないかいな。

いやがるおのぶを無理やり連れ、その奥州なまりをさんざんに笑いものにする新造、宮里・宮柴の二人。



■ 幸い奥の大騒ぎ。

遊廓の奥では客が飲めや歌えやの大騒ぎ。宮城野はこの騒ぎにまぎれて妹とこの場を逃れ、敵討を目指すと考えたのですが…



■ 突き出されたる田舎の娘。

宮城野の部屋の豪華さにあっけにとられるおのぶ。目の前にいるのが姉とはつゆ知らず、うろうろと辺りを見回し、見たこともない豪華な調度品の数々に、思ねば「コリヤマア何たる所だツテヤア、あゝこもかも光申して、お洒落の櫛梳くし見るやうに塗りこべえた簀笥サア、その上に夜の物もコリヤ金切たア…私らアねまつたら踵のあかがりサア引つ懸かつて、うつ切れ申すべい。おやつかな、たまげ申す！」と田舎丸出しで声を上げます。

■ 暖簾引き切り駆け出る亭主。

奥座敷へ宮城野が現れないのをいぶかし
く思い、支度部屋を訪ねたところで、仔
細ありと見て様子をうかがう揚屋の主人
惣六。この後、二人の決意を聞いて物陰
から飛び出します。

■ ヤアそんならわしが妹。

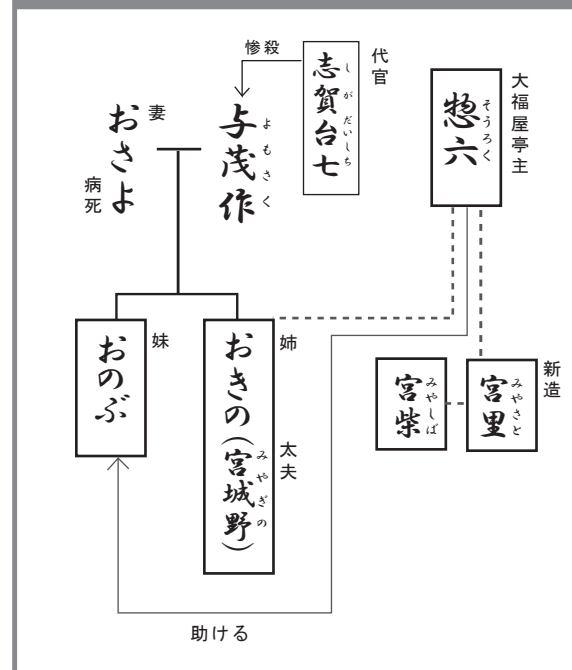
笑い転げる新造二人を「小さい子をそのやうに笑はぬもの。誰も目見えのその時は恥づかしい事ばかり。」とたしなめ、おのぶをかばう宮城野。二人に奥の客のもとへ行くよううながし、席を立ったすきに、おのぶの身元を詳しく尋ねます。

物語る小道具

～ 豪華な布団・打掛 ～

豪華なる枚重ねの敷布団。最上位の遊女が用いました。宮城野が着る3枚重ねた打掛には浮世絵に描かれた遊女たちの衣裳にも登場する鯉の滝登りの刺繍が立体的に施されています。

碁太平記白石噺 新吉原揚屋 主要登場人物



〔参考文献〕

『新編 日本古典文学全集77 浄瑠璃集』2002年10月 小学館

『歌舞伎事典』 平凡社 1993年4月

『歌舞伎登場人物事典』白水社 2006年5月

『絵金 極彩の闇』 grambooks 2012年10月

『絵金 土佐の芝居絵と絵師金蔵』高知県立美術館 1996年